

爪切り屋メディカルフットケアJF協会 協会通信

NO.28

心つなぐ足へのメッセージ

2017年 6月 発行

編集・発行 爪切り屋メディカルフットケアJF協会 広報委員会
〒179-0085 東京都練馬区早宮3-12-5 TEL 03-3992-1824 Fax 03-3992-3309

爪切り屋メディカルフットケアJF協会

会長 宮川 晴妃



桜便りも終わり、何故か夏、日本の四季も変わってしまったのでしょうか？私達の生活も少しずつ変わってきているのかもしれませんが。

相変わらず今日的な課題は高齢者の介護予防に向けたケア方法の開発です。寝たきりの要因となる転倒予防は、最も重要な課題となっているようです。地域で行われている転倒予防教室に見られるように、バランス機能や筋肉の強化を目的とした運動が中心です。

私たちが目的としている、立位や歩行時に体重を支える足部形態及び機能を整えるフットケアは、必要と言われているのにもかかわらず、まだまだ知らない人も大勢います。

福祉医療関係の講演に行っても、「目から鱗、爪の役割などは知らなかった。」「爪も正しいケアが必要な事を実感しました。」などの声を聞きます。

今後さらに足趾、爪だけでなく、感覚や循環といった生理機能も含め、医師との連携を求め、足の健康状態を総合的に観察し評価出来るように、フットケアの技術向上に努めていきたいと思えます。

平成29年度定時総会

2017年4月22日

平成29年度定時総会

第76回日本公衆衛生学会総会について

平成29年4月22日(土)に東京法規出版会議室において、爪切り屋メディカルフットケアJF協会平成29年度定時総会が、司会西脇友子副会長、議長渡辺真弓会員、議事録署名橋本勝子会員、書記浅見・並木理事で行われました。

(会員総数129名、出席23名、委任状49名、計72名で過半数を超え総会成立)

議案は下記の通り承認されました。

- 1 平成28年度活動報告
- 2 平成28年度収支決算報告書
- 3 平成29年度活動計画
- 4 平成29年度収支予算

尚、来年度は理事の改選があります。

2017年10月31日(火)～11月2日(木)鹿児島県民交流センター他の会場で開催されます。

募金箱を作成し、総会・35回研修会でご寄付をつのりました。今年度は研修会毎に募金箱を設置いたします。研修会に参加出来ない方には、振込でのご寄付も受け付けております。研修会の案内に同封されております振込み用紙をご利用ください。(その他の欄に公衆衛生学会協賛金とご記入ください) よろしくお願いたします。



○特別講演「知っておきたい最新足病情報とフットケアの必要性」

まるやま皮膚科クリニック・東京医科歯科大学非常勤講師 加藤卓朗先生



毎年快く講演を引き受けてくださる加藤先生ですが、退職後2年となり、会議や書類作り、マネジメントのストレスもない今の状況をととても楽しいと話され、表情も明るく分りやすくご説明下さいました。

今年も①足の皮膚病と足爪の疾患②足病変に関する糖尿病の問題点③白癬の感染経路とその予防④皮膚科の最近の薬⑤フットケアの内容でお話いただきました。先生の専門の白癬については、2年前に出た爪外用薬の特徴や

問題点について詳しいお話がありました。他の爪疾患薬に比べ有効性は高く、また毎日塗布することで足と爪のセルフチェックができ、ケアもできる。自分で塗りにくい患者さんには体を動かすリハビリ効果にもなり、自分で出来ない人に塗ってあげる場合でも爪甲に塗布しやすく接触せずに塗布可能であり、内服薬より心のこもった治療、ケアが出来る。高価である事も治療意識を高め、患者さんの気持ち前向きにさせる等、問題点を前向きにあるいは逆手に考えるお話がありました。今年も足病について再確認いたしました。明日からのケアに自信をもって臨みましょう。

○事例検討会

爪の先端から中程まで白く伸びた白癬による病変(写真1)。これ以上広がらないようにするにはどうしますか？どこを削りますか。

橋本先生による爪白癬の施術例から始まった事例検討会は実践の現場ならではの事例が次々と出され、4つのグループに分かれての検討と発表、全体での話し合いが行なわれました。

写真2の事例では「まずこの趾に当たっている部分を削りたい」「むくみがあるので角質をとる際注意が必要では」「靴下の正しい履き方の指導を」等々たくさんの方々のフットケアワーカーの目を見た様々な意見が出されました。宮川先生より「皮膚にテカリがあるのは危険状態。医師から依頼はありますか。既往歴の把握も大切」「この皮膚のへこんだところ傷があるなら爪を削るとき保護が必要です」等施術前のアセスメントについての助言と「私たちが足を拭きとるとき8段階で拭きとって



いるのは血行を促すリハビリの意味もあるのです」と日常のケアを再確認するコメントを頂きました。

この後の事例でも爪の切り方削り方についての検討に加え、医師との関係や家族への連絡についてなど幅広い意見が出されました。寝たきりの方の事例について宮川先生より

「今後歩かないなら爪の形をどう伸ばしてゆくかということより、まず引っかからないようにすること。楽なのが一番です」というコメントがありました。「この方には何が大切か、何のためにケアするのか」という技術とともに大切な忘れてはならないケアの原点を確認いたしました。

終わりに今後も事例検討会を続けてゆくことを出席者で確認しました。事例検討を通しフットケアワーカーとしての視点と技術をより確かなものにし、ケアの質を高めてゆきましょう。皆様からの事例をぜひお寄せ下さい。



とびっくす



4月22日は、元浦和工業の木村さんと、マイアスの方がいらして、総会後の昼休憩と研修会の休憩時間に新商品の説明と販売がありました。特別に安く購入できました。



研修会後の懇親会は、貸し切りのお店で美味しい魚料理に大満足！話はずみ笑顔の一枚です。

会員活動報告 世界、こんなところのフットケア 八島ゆみ

私は宮城県仙台市在住で、現在は特別養護老人ホームの介護職員をしています。

1級を取得して、早いもので今年で12年になります。卒業後は当時の勤務先の老人保健施設で主に入居者のフットケアと職員向けの爪切り指導を行っていましたが、平成25年に退職、2年間の海外ボランティアに参加しました。

任国は南米ブラジル連邦国。アメリカやドバイを経由し飛行機で約30時間かかります。国土は日本の23倍、南部を除き夏は40℃をこえる亜熱帯地域で言語はポルトガル語。昨年のオリンピックでも話題になりましたが、治安は世界ワースト1です。

私はサンパウロ日伯援護協会傘下の養護老人ホーム、サントス厚生ホームへ配属。ブラジルにはかつて日本から大勢の人々が移民し、コロニアを形成して歴史や文化を継承しましたが、世代は変わりネイティブな日本語を話す方は減少。高齢者介護において言語による意思疎通が難しい環境なのです。

当時の入居者は約50名。99%が日本語を話す日系1、2世と、私は日本語で接し日本行事の企画・実施、現地職員との仲介、そして看取りにも関わりました。



現地フットケアの様子

ブラジルのフットケアはヨーロッパスタイルのポドロガという専門職があり、街中にはサロンもありました。美容師の学校に専門コースがあり一般にも周知されています。施設でもケアを要望する方がおり、週1回、ポドロガがボランティアに来ていましたが、日本語しか話せない入居者は私がケアをしました。協会のエプロンを着けて歩くと、「私はその“爪切り屋”というのがとーっても好きなのよ。」と、とても喜ばれました。

ブラジル人はお肉や揚げ物が大好きで、食後は甘〜いカフェ、完熟南国フルーツは毎日食べます。糖尿病や高血圧症の方が多く、道行く人の豊満ボディ、高齢者のひざ下のポコポコした血管はよく目にしました。高齢化率7%（2010年）のブラジルで、フットケアで介護予防という観点はまだまだのようです。



サントス厚生ホーム周辺の風景



種類豊富な完熟南国フルーツ



ブラジルの国花 イペ

サロン報告 フットケアサロン「足の爪切り屋」 小泉裕見子

平成 26 年 3 月に講習を修了し、茨城県水戸市にて協会の先輩である矢野倉敬子さんと共に某クリニック内でのフットケア外来の担当や、各施設にて、フットケアワーカーとして活動を始めました。

平成 28 年 6 月より訪問(出張)フットケアも含めて〈フットケアサロン「足の爪切り屋」〉を自宅にて開業いたしました。

この 3 年間で、クリニックや施設でのメディカルフットケアの希望者数は増加傾向であり、一週間の大半をクリニックや施設でフットケアワーカーとして活動しています。これは大変ありがたい事ではありますが、自宅サロンの開店日が不定期になっていることが今の私の悩みです。

まだまだ課題の多い毎日ですが、一人でも多くの方に、色々なかたちでメディカルフットケアを利用していただき、足、爪で困っている方に少しでも楽になっていただけるよう、お一人お一人と向かい合い、今私に出来るケアをしっかりと丁寧に行って参りたいと思っております。



使ってみました！「BSグラス(保護メガネ)」 会員価格¥1800

グラインダーを使うとき気になるダストから顔全体を覆って守るという「BS グラス」を使ってみました。メガネのようなフレームに薄く透明なレンズ(フィルム)を差し込み、写真のように使用します。顔全体をカバーできる、曇り止め加工が施されているため曇ることがなく軽くてズレにくい、視界が広い等「使い心地は良い」との意見が大半でした。メガネやマスクとの併用ができますが、防塵という点ではマスクを併用した方が多かったようです。

連続して使う際にダストで汚れたレンズを交換して使用できるようレンズだけの販売があると良い。傷や破損したときのために予備としても欲しい。携帯するときケースがないためフレームやガラス面の保護に工夫が必要などの意見がありました。

レンズを差し込む位置や角度を保護したい部分に合わせて変えるなど工夫もできそうです。レンズだけの販売もあります(会員価格2枚入り¥1400)



※分かりやすいようフィルムの縁を水色で囲んで表示しました

理事会からのお知らせ

事例検討会の事例を募集しています。事例を提出し易いように事例提供用紙を考案中です。準備出来次第ホームページにアップしますのでどうぞご利用下さい。

皆様から沢山の事例をお待ちしています。

編集後記

毎号会員の皆様の活動報告やサロン訪問を読みワクワクするのは私だけでしょうか。日本ばかりか海外でも活躍する会員の仲間たち。

「私は私の場所で、さあ頑張りましょう！」そんな気持ちになりますね。この夏も暑くなりそうです。笑顔を忘れず爽やかに過ごしましょう。

